



夏

京都御苑再発見

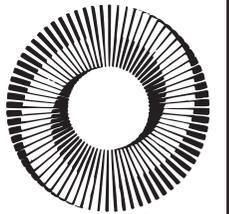
小沢 晴司

紫宸殿や清涼殿などが並ぶ「御所」は、かつて天皇が住み公務を行っていた場所ですが、そのまわりの「御苑」とはどのような空間なのでしょう。

頭はこの地にあった公家世界は、天皇の即位を含め様々な儀式や意思決定を構成する朝廷システムそのものでありました。京都人が御苑も含めた空間全体を御所と呼ぶのは、この

今後の御苑計画

平成19、20年度、京都御苑のあり方検討が行われ、検討会委員長を務めた奈良県立大学西田正憲教授と事務局小沢晴司前所長からその概要を報告します。



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人 京都市上京区 京都御苑3番地 075-211-6364 財団法人 国民公園協会 京都御苑 木村博司 編集 白川書院 監修 環境省京都御苑管理事務所



御苑の夏の風景「サルスベリ」

二年間の京都御苑の検討は、バリアフリーや地球温暖化対策等を考慮した御苑整備や管理に関する議論とともに、このギャップを埋め御苑の語の意味を再発見しようとするものでした。御苑の地にあった公家町は幕末期に近代日本を生み出す胎盤のように機能しました。この特別な空間の理解は、敢えていえば日本の歴史主軸の理解に直結します。今後も御苑の空間の調査・研究等を通じてその魅力が周知され、御苑を大切にされてきた地元京都の方々に学び、長い歴史

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。自然に学び、自然の調和をそこなわぬようにしよう。美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。



バリアフリーについて検討中

検討を振り返って

西田 正憲

平成十九年度に京都御苑の整備・管理に関する将来の指針として『京都御苑庭園基幹施設再整備基本計画』を策定し、平成二十年度にはこの基本計画の各論を展開した『実施計画編』を取りまとめました。これらの情報整理や課題抽出を行う検討作業委員会の委員長として

の視点を携え管理等が進められていくことを願ってやみません。この二年間ご指導下さいました西田正憲教授、ご支援下さいました宮内庁、京都府、京都市を始め多くの関係の皆様へ深く感謝申し上げます。滋賀県立大学特定教授（前京都御苑管理事務所長）

て、報告書を取りまとめましたので、ここに所感を述べさせていただきます。二カ年に渡る検討は、報告書を取りまとめましたので、ここに所感を述べさせていただきます。二カ年に渡る検討は、報告書を取りまとめましたので、ここに所感を述べさせていただきます。二カ年に渡る検討は、報告書を取りまとめましたので、ここに所感を述べさせていただきます。



歴史散策の集い

堺町休憩所・公衆便所の完成について

大塚 雅一



休憩所外観

京都御苑は、サクラやマツなど多くの木々が緑が豊かな場所として知られることがありますが、たびたび京都市と表現されることとが、京都御苑に囲まれている御所の存在感と重要性を考えるとその方が理解されやすいのかもしれない。京都御苑は戦後国民公園となり、御所の風景観を守ることを基本としつつ、非日常の祝祭利用と日常の公園利用、観光利用と市民利用、庭園の空間と森林の空間等の共存を図り、都市公園の要素と自然公園の要素を付加することから、京都御苑利用者の方々の利便性を向上させるための役割を担っている休憩所や公衆便所などです。



休憩コーナー

洗面所に設置した装飾ガラス。休憩コーナーでは、石ベンチを配置し、掲示板には苑内地図や季節の草花の情報等について利用者への情報提供を行っています。是非ご利用ください。（京都御苑管理事務所 庭園科）

堺町休憩所 歴史的価値のある京都御苑にあって、築後長い年月が経ち老朽化が著しかったため、旧休憩所を撤去し、新たに景観・歴史に調和のとれた休憩所・公衆便所を建設しました。

御所と公家町の記憶を色濃く残しながら、大都市の広大な緑地として、多様なニーズにこたえてきました。今回の基本計画と実施計画編もこのような京都御苑の大きな流れの中にあったといえます。（奈良県立大学教授）

催 事 案 内

■平成21年京都御苑自然教室

一般の方を対象とした自然教室を本年度は、下記の通り予定しています。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で夏の自然を観察しましょう。

夏の自然教室

“夏の御苑にふれよう”

7月20日(祝・海の日) 午前9:30~12:00

- 主 催** 環境省京都御苑管理事務所
(財)国民公園協会 京都御苑
- 指 導** 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
- 内 容** 夏の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。
- 集合場所** 京都御苑 富小路休憩所前
(上京区京都御苑 富小路口)
- 参加費** 無料
- 受付方法** 当日集合場所に9:30頃までにお集まり下さい。
- 問い合わせ** 京都御苑管理事務所
TEL 075 (211) 6348
(財)国民公園協会京都御苑
TEL 075 (211) 6364



その他 筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があればご持参下さい。

*以降の自然教室予定

秋の自然教室“秋の御苑にふれよう”
平成21年11月22日(日) 9:30~12:00
集合場所 石薬師御門前

会 員 募 集

財団法人国民公園協会 京都御苑

年会費

- 普通会員 1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

会 員 へ の 特 典

1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
2. 本会発行物をそのつど送付します。

■申し込み、問い合わせ先

(財)国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑内
〒602-0881 TEL 075 (211) 6364

御 苑 の 花 暦

和 名	開 花 期	主に見られる場所
キショウブ	5月~6月	出水の小川
アベリア	5月~11月	大宮・仙洞御所 東側散策道沿い
サルズベリ	7月~9月	間ノ町口内、九条池周辺 建礼門前、寺町御門、等

トンボ池一般公開

8月上旬に一般公開を予定しています。
ハスの開花状況により公開日を決定しますので直前のホームページ等でご確認願います。



アオバズク (西台律子氏撮影)

アオバズク食性調査から 学んだこと

塚本 圭一

二〇〇四年から〇八年までの五年間に、御苑南西の宗像神社に営巣するアオバズクの食性調査から学んだことをお話しいたします。アオバズクは青葉の頃に南方圏からやってくるフクロウ科の鳥です。食痕とは、残し餌、食べ残し、調理餌なども言っていますが、共同研究者の西台律子先生と相談し、食痕としました。育児には三カ所の枝でうまく調理して与えていることも西台先生の観察で判りました。

東大の地震研究所の先生は、火山の内部を素粒子の一種ミュオンを使って撮影に成功したといっています。私たちはアオバズクの協力で御苑内部の夜の世界の一部を知ることができました。私はアオバズクの生態についてはまったく知らな

アオバズクの食物の選択には理にかなったものがありません。それは、捕獲しやすいもの、栄養価の良いもの、夜行性のもの、黄昏時にも捕獲、自然のリズムと合っている、生活のなかで育児期、肥育とダイエットを考えて食物を選択している。調理が上手い、トンボであれば翅を除去、コ



ウチュウ類では頭部、触角、前胸背、翅、脚の除去、チョウ目(蛾類がほとんど)では翅を除去、脚の除去などが丁寧に行われていました。

アオバズクの営巣・補食・子育てなどの行われている生活の場を考えてみますと、御苑の宗像神社という聖域でも安全で住みよい場所です。アオバズクと生きものの関係は線形ではなく非線形であることも今回の調査で

あらためて知りました。複雑系というか、羅網の空間があって、無数のいのちの繋がりがあります。

もう一つはアオバズクを中心にして考えますと、それを取り巻くいろいろな種社会があつて、それら種社会はそれぞれに住処と食草・食樹があつて、時間、季節の移り変わりで、季節の移り変わりで、うまく生きています。私たちには良く見えませんが、蛾の各種類はそれぞれに御苑のどこかで生きていますし、季節の進行に従っているいろいろな種類が現れてくるのを食痕から知ることができました。

アオバズクの営巣から旅立ちといういのちの推移のなかで、アオバズクは私たちに御苑の昆虫相の解明を手伝ってくれたのです。灯火調査でも良くわか

らない夜行性の蛾類についても知ることができました。

昆虫類は百二種、その内、トンボ類は十二種、バッタ類二種、ゴキブリ類は一種、セミ類は三種、甲虫類は三十二種、チョウ類は五種、蛾類は四十七種でした。蛾などの季節が終わると、アオバズクはセミを食べています。最近、温暖化が問題になりますが、クモメンガタズメやヒメアケビコノハなどのタシロラン・京都市南の種も食べています。

今回の調査で、昆虫の翅一枚、脚一本を標本にしておけば役に立つことを再確認しました。閑院宮邸跡の展示室に食痕の標本があります。五年間の調査の詳しいことは、京都御苑自然現況調査・第六集にありますからご覧

タシロランは腐生ラゴランの一種、無葉緑の植物です。環境省のレッドリストの準絶滅危惧種に指定されています。京都御苑では、小寺隆司さんにより平成二年七月に京都府内で初めてとる確認がなされました(小寺隆司(一九九二)京都御苑のタシロラン・京都市青少年科学センター報告 23~90)。

さて、京都御苑管理事務所では、平成八年より保護柵の設置や発生調査、ボランティアの方々の協力を得てアオバズクの生育箇所の見回りなどの保護監視活動等に取

り組んできました。調査をはじめた頃は、京都御苑での生育状況がよくわかっていなかったため、まず生育箇所と発生数の確認を中心として調査することにしました。その結果、タシロランの発生期間は梅雨期の三週間程度であることがわかりました。この結果をはじめ京都御苑のタシロランの平成八年から平成二十年までの十三年間に亘る調査記録について、この度、財団法人 国民公園協会発行の「京都御苑現況調査報告書第六集」に報告させていただきます。



白色が不思議と保護色となっているタシロラン

タシロラン

中西 甚五郎

この報告書には、タシロラン以外にも野鳥やきのこなど京都御苑内の動植物等について興味ある調査報告がされています。京都御苑の自然を知る一つとして是非一度ご覧いただけば幸いです。

タシロランは分布域がひろがってきており、来苑者の方々も目にすることがあるかもしれませんが、タシロランは特異な環境でしか生育せず、持ち帰っても枯死して育ちません。もし、タシロランを見つけたら、そっと自然の中で見守るようお願いします。

(京都御苑管理事務所 普及指導企画官)